

法政大学 情報科学部

2008年度 「離散数学」 ガイダンス

栗原正純

電気通信大学

(UEC Tokyo)

2008年9月24日

2008/9/27/17:33

離散数学ガイダンス

- ① **科目名** 離散数学
- ② **教員名** 栗原正純 (Email: kuri@ice.uec.ac.jp)
- ③ **教材** (本日の配布資料)
「離散数学」(総ページ数 55 ページ)
- ④ **参考書籍**
書名 (情報技術者のための) 離散系数学入門
著者名 尾関和彦
出版社 共立出版 (2004)
- ⑤ **その他の参考書籍**
配布資料「離散数学」の最後のページを参照。

離散数学ガイダンス

① 授業の学習目標

情報科学や情報工学に関わる学問をよりよく理解するための基礎事項について講義する。具体的には、集合、写像、論理、数学的帰納法、関係、グラフなどの離散系の数学的基礎概念を把握し、離散的な対象を論理的に表現し、思考できるための基礎を身につけることを目標とする。

② 授業方法

基本的には講義形式(板書)にて授業を行う。講義時間中に、可能な限り演習も行う予定である。その他に、課題レポートを出す予定である。

離散数学ガイダンス

1 講義内容

- 集合
- 写像
- 論理 (命題論理, 述語と限定記号)
- 数学的帰納法と再帰的定義
- 関係 (2項関係, 同値関係, 順序関係) + グラフ

離散数学ガイダンス

① 成績評価方法と基準

- 評価方法

原則として定期試験の成績に基づいて評価を行う。

出席状況と課題レポートの内容を付加的な判断材料として考慮することもある。

- 評価基準

集合、写像、論理、数学的帰納法、関係、グラフなど、講義で扱った基本的な概念を理解していることをもって合格の最低基準とする。

離散数学ガイダンス

① 成績評価方法と基準

● 評価方法

原則として定期試験の成績に基づいて評価を行う。

出席状況と課題レポートの内容を付加的な判断材料として考慮することもある。

定期試験では、「手書きのノートのみ」を持ち込み可とする。

(配布資料, コピー, 書籍などの持ち込みは不可とする)

● 評価基準

集合、写像、論理、数学的帰納法、関係、グラフなど、講義で扱った基本的な概念を理解していることをもって合格の最低基準とする。

離散数学ガイダンス

① 講義日 (2008/09 ~ 2009/01)(水曜日 1 時限目)

9月 24日

10月 1, 15, 22, 29日 (10月8日は休講)

11月 5, 12, 19, 26日

12月 3, 10, 17, 24日

1月 14日, 21日 (試験日)

② 講義での注意事項

- 私語を慎む (他者のことを考える)。
- 講義ノートをとる。

③ 参考 WEB ページ

<http://www.code.ice.uec.ac.jp/class/>